

ビジネス利用者支援による小松羽田便の活性化

～小松羽田便ビジネスサポート事業～

提案書

1 小松空港の現状と課題

北陸新幹線金沢開業（H27.3.14）前後での航空会社と県の取り組み

運賃値下げ

航空	通常/ピーク時	事前割引運賃						
		1日前	21日前	28日前	45日前	55日前	60日前	75日前
開業前	24,600 /27,100	16,400～	13,100～	12,600～	11,600～	10,500～	10,600～	10,100～
開業後	24,600/ 27,100	12,900～	11,200～	9,600～	9,500～	9,400～	9,300～	9,200～

※ 55日前は日本航空のみ

キャンペーン等の展開

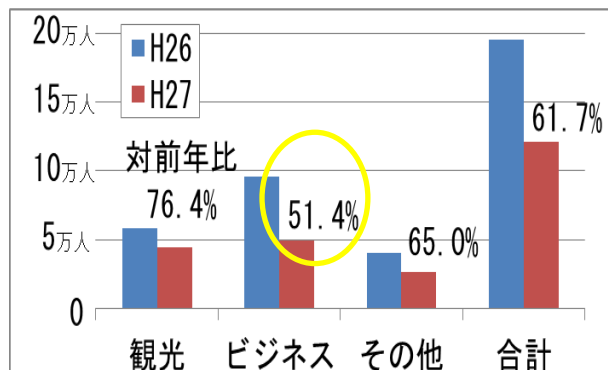
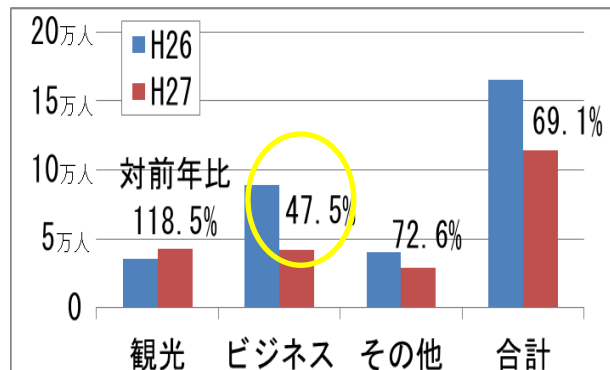
- ◆ **小松空港駐車場無料キャンペーン**
空港環境整備協会様のご協力により小松空港駐車場料金をワンコイン化
第2駐車場 800円 ⇒ **500円** 第1・3駐車場 600円 ⇒ **400円**
- ◆ **お得な旅行商品券の発行**
石川県民が、羽田便旅行商品を購入する際に旅行券にて
一人あたり **5,000円** 値引き
- ◆ **首都圏旅行会社向けに、羽田便利用旅行商品支援**
首都圏の旅行会社で一人当たり **5,000円** 値引きした旅行商品を販売
- ◆ **航空会社と連携したキャンペーン**
航空会社と連携した、複数回羽田便を利用されるお客様に駐車場利用券などをプレゼントするリピートキャンペーンの展開

1 小松空港の現状と課題

旅行目的別利用者数の変化（推計値）

— アウトバウンド（北陸在住者）

— インバウンド（北陸以外在住者）



※H27、H26年実施の小松空港アンケート結果をもとに3/14~5/31の利用者数を推計

8/20(木)北國新聞

全日空の小松ー羽田

来夏1日5便に減
 目標月450席増 未達なら、さらに減
 全日空の小松羽田便が、来夏1日5便に減り、目標月450席増を達成できなかった場合は、さらに減便される可能性がある。同日発表した10月のダイヤでは、便数を維持する。次の夏からは、隣の小松新線と連携し、観光客の増加に対応する。全日空は、来夏1日5便に減り、目標月450席増を達成できなかった場合は、さらに減便される可能性がある。同日発表した10月のダイヤでは、便数を維持する。全日空は、来夏1日5便に減り、目標月450席増を達成できなかった場合は、さらに減便される可能性がある。同日発表した10月のダイヤでは、便数を維持する。



<課題>

○石川県の住民の交流基盤のみならず、本県来訪者への多様な交通手段を確保するため、航空の利便性維持には便数の維持が重要であり、そのためのビジネス利用対策をH27年9月から推進

2 施策体系

事業名：ビジネス利用者支援による小松～羽田便の活性化
～小松羽田便ビジネスサポートキャンペーン事業～

取組目標

羽田便の
ビジネス客利用
回復による
小松・羽田便の
便数維持と
活性化

課題

新幹線開業後、企業は...

・時間的、経済的合理性から
交通手段を選択

→航空を利用することによる
コストの低減をアピール

・リピーター層の減少

→飛行機利用によるお得感
の反映

施策内容

小松・羽田便ビジネスサポート キャンペーン事業

小松羽田便の利用を宣言する企業に対し
空港利用の際の特典の付与

利用回数に応じた特典の付与

H27年県9月補正予算で
事業開始

3 施策内容

事業名：ビジネス利用者支援による小松～羽田便の活性化

～小松羽田便ビジネスサポートキャンペーン事業～

参加企業：首都圏及び北陸地域の企業

- 小松・羽田便の積極的な利用を宣言してキャンペーンに参加
例：出張での羽田便利用を現在の1.5倍とする。
- 参加企業に対し**特典**を付与

利用特典

◎エントリー特典（空港利用の都度毎回利用可能）

- ・特典：ターミナルビル内売店の割引、ビル内会議室の割引 等

◎リピート特典

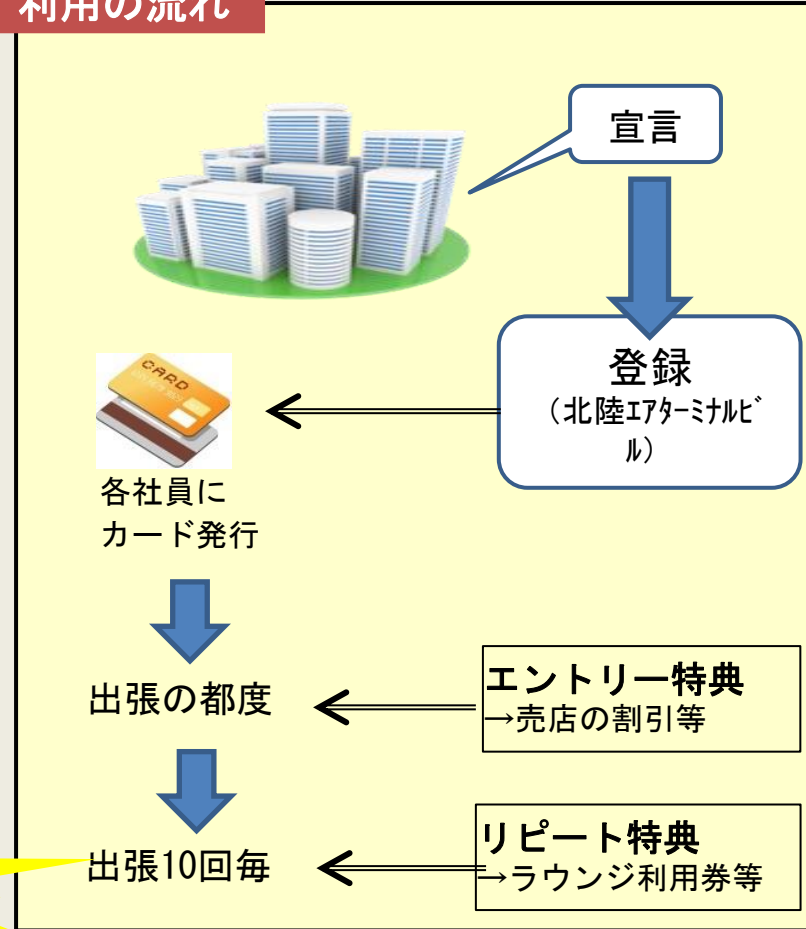
（10往復毎の利用に対して、5千円相当の特典を付与）

- ・特典：空港売店お土産クーポン券
- ・エアポートラウンジ利用券
- ・レンタカー割引券 等



28年度はさらに特典を見直し

利用の流れ



アクセスコスト等を一部支援することで、企業の**経済的、合理的な選択をサポート**、さらに**空港利用でのお得感を醸成**

4 目標と効果

<目標利用者数>

年間ビジネス利用者推計
現状 約30万席

10万席増
約40万席へ

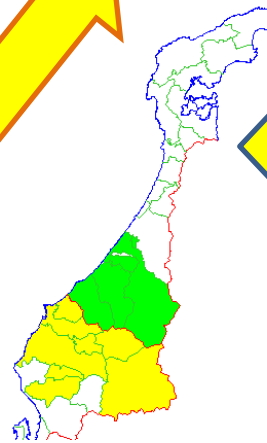
エアラインの掲げる
増加席数の達成

<効果①>

・羽田便の便数維持による
航空の利便性維持

<効果②>

- ・加賀、福井嶺北地域の交流人口の維持・拡大
- ・首都圏との高速交通手段の維持



○航空を使った加賀、福井嶺北を巡る
旅行商品の造成確保

○加賀、嶺北地域や同地域への首都
圏からのビジネス利用の利便性確保

交通機関	地域	経路			所要時間
		出発地	経由地	到着地	
航空	加賀地域	小松市	小松空港	羽田空港	1時間10分
		加賀市			1時間30分
		白山市			1時間30分
		能美市			1時間30分
		川北町			1時間25分
新幹線	加賀地域	小松市	金沢駅	東京駅	3時間10分
		加賀市			3時間20分
		白山市			3時間
		能美市			3時間10分
		川北町			3時間5分

2

加賀地域
航空 > 鉄道、
約2時間
優位性

5 実施体制

【小松空港協議会】

石川県(実施責任者)

地元市町

(金沢市、野々市市、白山市、能美市、小松市、加賀市)

県内商工会議所・商工会

(金沢市、野々市市、白山市、能美市、小松市、加賀市)

航空会社

(全日本空輸、日本航空)

北陸エアターミナルビル(株)

【協力実施機関】

福井県

福井県、県内市町、経済界による企業への利用の呼びかけとともに、本キャンペーンをPR

他自治体の類似施策(県で単独)

都道府県	施策名	実施主体
山形県	山形空港サポーターズクラブ	山形空港利用拡大推進協議会
富山県	企業サポーターズクラブ	富山空港国際路線利用促進協議会
佐賀県	マイエアポート・サポーター	有明佐賀空港活性化推進協議会